5th Global work camp

報告書

開催期間：２０１７．８．１５～２０１７．８．１８

実施場所：国立阿蘇青少年交流の家

主催団体：一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

目次

・目的　概略 …… 1
・スケジュール …… 2
・第１分科会「経済格差」 …… 3
・第２分科会「平和」 …… 4
・第３分科会「環境」 …… 5
・第４分科会「ボランティア」 …… 6
・基調講演 …… 7
・全体アイスブレイク …… 8
・全体交流会 …… 9
・ユメノトビラ …… 10
・阿蘇学 …… 11
・全体報告会 …… 12
・観光 …… 13
・アンケート集計結果 …… 14
・参加者より …… 15 ～ 16
・実行委員会より …… 17
・連携推進員より …… 18
・タイ派遣プログラム …… 19
・タイ派遣者の報告 …… 20
・４日間の軌跡 …… 21 ～ 22

目的・概略

●目的

～グローバル社会における人と人をつなぐ国際交流と若い世代の人材育成～

グローバル化、新興国（特にアジア）の成長等、世界全体の社会構造が大きく変化する中で、アジアを中心に未来を担う若い世代が集い、交流を図りながら、共生社会を構築するための自己の存在認識と可能性を発見する。

●概略

［期　間］2017 年（平成 29 年）8 月 15 日（火）～ 18 日（金）3泊4日
［会　場］国立阿蘇青少年交流の家　（熊本県阿蘇市一の宮町宮地 6029-1）
［参加者］103 名
日本人大学生 59 名
留学生 10 名（メキシコ３名、タイ王国２名、モンゴル、インドネシア、パプアニューギニア、大韓民国、ミャンマー、各１名）
海外の大学生等 34 名（６カ国）タイ６名、ミャンマー２名、モンゴル２名、インドネシア２名、大韓民国 19 名、台湾３名）

●主催

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
（平成 29 年度文部科学省「青少年教育施設を活用した国際交流事業」として実施）

スケジュール

8月15日(火)　初日

8：30　日本文理大　出発
　　(別府を経由して阿蘇へ)
9：30　熊本市国際交流会館　出発
11：30　国立阿蘇青少年交流の家　到着
12：00　昼食
13：15　開会式・開会宣言
13：30　基調講演
15：00　全体アイスブレイク
17：30　夕べの集い
18：00　夕食・入浴
18：30　全体交流会
　　・民族衣装＆ダンス紹介
　　・キャンドルの集い

8月16日(水)　2日目

6：00　起床・清掃
6：45　朝の集い
7：00　朝食
9：00　分科会活動①（～17:00）
17：30　夕べの集い
18：00　夕食・入浴
19：00　阿蘇学（～21:00）
22：30　就寝

8月17日(木)　3日目

6：00　起床・清掃
6：45　朝の集い
7：00　朝食
9：00　分科会活動②（～17:00）
17：30　夕べの集い
18：00　夕食・入浴
19：00　ユメノトビラ（～21:00）
22：30　就寝

8月18日(金)　最終日

6：00　起床・清掃
6：45　朝の集い
7：00　朝食
9：00　全体報告会
10：00　評価会・閉会式
　　閉会宣言
11：10　阿蘇青少年交流の家　出発
11：40　昼食（草千里）
12：45　草千里　出発
13：15　阿蘇神社門前町到着
14：30　阿蘇神社出発
17：00　熊本市国際交流会館　到着・解散
17：30　(別府を経由して大分へ)
　　日本文理大　到着・解散

第１分科会　経済格差

西南学院大学　２年　山田　京平

今日、世界はとんでもないスピードでグローバル化が進んでおり、それは様々な恩恵をもたらしているが同時に多くの深刻な問題を我々に突きつけている。私たちはその中でも国同士の経済においての格差、つまり経済格差について取り扱った。

１日目はそもそも経済格差とは何なのか、世界でどのような問題があるのか、今の状態がそのまま続くと将来的にどのようなリスクがあるのか、ということを南北問題などを取り上げて参加者と話し合った。また経済格差を解消する取り組みとしてフェアトレードを大学で実際に行っている学生に講話をしてもらい、大学生でも世界の問題解決に携わることができること、遠く離れた途上国の貧困問題が他人事ではないことを改めて痛感した。午後は「貿易ゲーム」を行った。これは実際に世界で経済格差がどのように起こっているのか体感できるゲームである。最初はどのように行動したらいいか分からなかった参加者も次第に意味を理解し、グループ同士で交渉し合ったり、貧しい国を割り当てられたグループは自国を繁栄させるために自分達でアイデアを出しあったりして先進国グループに対抗していた。

２日目は前日に行った経済格差についての問題をどのように解決すればよいのかソーシャルビジネスやBOPビジネスといったビジネスの視点から考えた。無償であるボランティアとは違い利益を得るビジネスでは全く社会に対するアプローチも異なり議論も白熱した。また「大学生にでもできること」をテーマに我々実行委員と参加者とが一緒になって議論しあった。一例を挙げると、「実際に現地に赴き格差が起こっている現状を目の当たりにする。」「実際に自分たちが行動し、その実績をSNSを用いて拡散し多くの人々、特に同じ世代である大学生に見てもらうことで活動の規模をより大きなものにしていく」などさまざまなアイデアが生まれた。

この２日間、経済格差をテーマに様々な人の意見や価値観に触れて今まで自分にはなかった考えや反省すべき点を見つけることができた。

第２分科会　「平和」

熊本県立大学３年　戸田　千晴

この分科会では、一人一人が「平和」な世界をつくる一員であるという自覚をもち、また私たちはその「平和」のために何が出来るのか・何をしなければならないのか考える、ということをゴールに掲げ、日本・韓国・インドネシア・ミャンマー・タイからの参加者と一緒に「平和」について考えました。特に今回は「人権」にスポットをあて、戦争・紛争において誰が被害にあっているのか、様々な出来事の裏側に潜む人権侵害の問題についても議論しました。

分科会初日、まず参加者に「平和」に対するイメージを思いつくだけ沢山あげてもらいました。そこでは、「家族」や「愛」、「戦争がない」、「衣食住や娯楽がある」といった言葉が多くあげられました。その後、紛争問題について考える時間をつくりました。具体的には、ゲームを通して紛争状態の疑似体験、熊本大学大学院先導機構の田辺先生からの「紛争」「暴力」「平和」に関するお話、そして少年兵とルワンダ虐殺、難民問題を学び、ディスカッションを行いました。少年兵とルワンダ虐殺の事例からは、問題の裏側に隠されている課題・人権侵害という点にも注目してもらった上で、次に紛争問題とも関連する難民問題の現状・課題、そして難民問題に対する自国の意識・対応を各国の参加者が代表して発表してくれました。また、参加者それぞれの難民問題についての意見も共有してもらいました。

２日目は１日目に話し合った少年兵・ルワンダ虐殺・難民問題を、「人間の安全保障」というキーワードをもとに振り返りました。その後、私たちの身近におこっている様々な問題をあげてもらい、それらの対処法・どのようにしたら防げるのか、ということを考えてもらいました。ここでは、参加者自身に私たちから遠い問題のように思われる出来事も、決して遠い話ではない、私たちの身近な問題とも関連性があるということに気づいてもらうことが出来ました。そしてプログラムの９割を終了した時点で、１日目と同じ、「平和」に対するイメージ・考えをあげてもらうワークをすると、前日に比べて参加者の「平和」に対するイメージ・考えはより深まり、具体的な言葉が数多くみられました。その中には尊厳、教育、権利、守る力、尊敬、行動などがあり、心の豊かさも「平和」に関係しているといった考えを参加者から聞くことができました。最後には参加者全員に『私たちが平和のために出来ること』を考えてもらい、みんなで共有して今後のアクションに繋げていこうと決心しました。

今回分科会を考えていく上で、平和とは何だろう、平和な世界はいつやってくるのか、こんなことを何度も考えました。しかし、きっと「平和」は待っていてもやってきません。この分科会でおこなったように、何度も何度も「平和」について世界のみんなと考え続け、そして小さな一歩からでも行動に移していく必要があると感じました。でも私たちになら必ず成し遂げることができます。この分科会の参加者・実行委員だけでなく、世界中のみんなが「人」を想い行動すれば、「平和」な世界を実現できるはずです。

第３分科会　「環境」

日本文理大学　２年　中西　涼太

この分科会では、最初に普段生活している中で自然環境に対してどういう問題があるのかを知り、豊かな自然環境を未来に残すと共に生活する上で「自然環境に対して何ができるのか」を考え、キャンプ後に実行してもらうことを目的に始めました。

分科会１日目は初めに参加者の緊張をほぐすため、アイスブレイクから行いました。外国人の方も日本人の方も気軽に楽しめるように食べ物を用いたアイスブレイクなどをして和気藹々と話し合いができるようにしました。分科会内容としては、初めに人にとって快適・便利な生活と自然に優しい生活とのバランスをとる「エコエゴゲーム」を通じて、普段私たちが生活していく中で起きている環境問題やそれに対する対策を知ってもらいました。様々な文化や考え方の違いで新たな「エコ」観や「エゴ」観を見つけるきっかけになりました。そして身近に起きている環境問題がわかる写真（ごみ問題、排水問題）を提示し、分科会の中で４つのグループに分かれ、それぞれKJ法を使用して話し合い発表しました。ゴミ問題では１、くまモンを使った広報活動：くまモンと一緒にゴミ拾いをする。ゴミ拾いをした写真をSNSにアップした方にくまモングッズをプレゼントする。2、ビーチの貸し出し：SNSに投稿しごみを一番多く拾った団体にビーチの権利を一定期間貸し出す。貸し出すことでSNSを通じて企業への注目を集める。排水問題では１、食器洗浄機の開発：食器を洗う時に出る生活排水を流さないように食器を自動で洗って乾燥する機械。水の使い過ぎの防止。2、洗う食器を減らす：洗う食器を減らすことで生活排水をあまり流さなくて済む。などの具体的なアイデアが出されました。

２日目は実際に熊本の素晴らしい自然を肌で感じてもらうために、南阿蘇にある「白川水源」と「高森湧水トンネル公園」の視察に出かけました。前日まではゲームや写真でしか自然環境に対して考えていませんでした。しかし実際に阿蘇の自然を見て、触れて普段決して得ることのできないような体験をさせていただきました。その後戻ってからそれぞれの自然環境に対してどのように感じたかワールドカフェ方式を用いて話し合い、比較しました。その中でも同じ水源だが人工的に作られたものと自然にできたものでは大きな違いがあったといった意見が多かったです。最後にこれまで学んだことを活かして地元に帰り、自然環境に対して具体的に何をするのかを宣言してもらいました。

この２日間を通して普段、生活していく中で小さな行動が自然環境に対して悪影響を与えていることが多いかということを知ることができました。ここで得られたことを今後の行動のきっかけにしてもらいたいと思います。

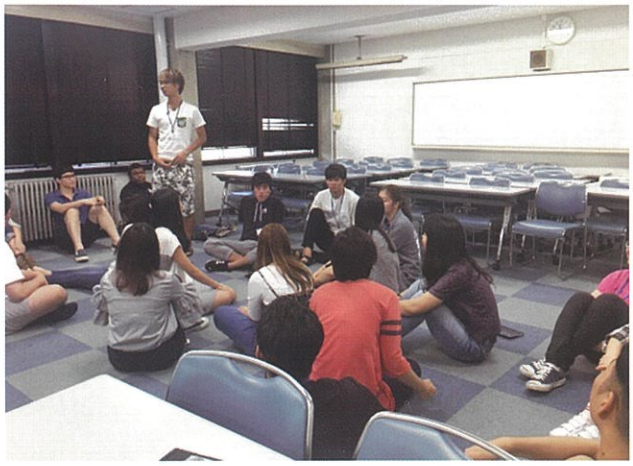
第４分科会　「ボランティア」

筑紫女学園大学　３年　大賀　万柚子

この分科会では、普段あまり意識することのない社会問題とボランティアの関係性を学んでいきました。何気なくしているボランティアにも様々な社会問題が隠れていたり、自分が気づかないうちにボランティアから社会問題に関わっていたりすることを参加者の方々と共有しました。最終的には社会問題を意識したボランティアをグループごとに企画し、後日実行することを目標としました。

初日は、アイスブレイクで緊張をほぐした後、参加者の方が抱いているボランティアへのイメージを共有したり、ボランティアとは何かや、いつからあるのかといった基本的な事を学びました。日本文理大学の高見先生から講義形式でボランティアについてお話していただき参加者だけでなくECもより深く学ぶことができました。講義の後にボランティアに対するイメージチェックを行うと最初よりも二度目の方がどのグループもイメージがかなり大きくひろがっていました。日本の方々が抱いているボランティアのイメージと海外の方が抱いているイメージに多少違いもありそれぞれの国によって捉え方も違うのだと感じることができました。

２日目は主に社会問題を取り扱っていきました。ECが考案した社会問題ゲームでは私たちが何も言っていなかったものの、あるグループでは日本人目線で考えるとこうだけど外国人目線になるとこうだよね等と外国の方がいることでより広い視野で物事を考えることができていたと思います。ボランティアに隠されている社会問題をボランティア募集のチラシから読み取っていくときには、グループで話し合い、ECが考えていたよりも多くの社会問題が見つかりました。身近なところから社会問題に関わることができることを感じることができました。最後には熊本組、大分組、韓国組の３つのグループに分かれてもらい参加者自らにボランティアを企画してもらいました。２日間の分科会活動を通して学んだことを活かしてボランティアを企画することができました。大学生のうちから社会問題に関わっていくことは大変なことのように思えますが、身近なボランティアから関われることを参加者の方々と共に感じることができました。



基調講演

日本文理大学　３年　上田　亮

今回の基調講演ではグローバルに活躍されている方に講演をしていただき、参加者がより海外に関心を持ち、グローバルな視野をもっと広げてもらうきっかけとなりました。

講演していただいたのは、俳優としても監督としても世界的に活躍されています梶岡潤一氏です。今回は梶岡氏が手がけた作品「杉原千畝を繋いだ命の物語」を通して、人権とは何か、平和とは何かというお話に加え、梶岡氏自身の「人生」と「夢」についてのお話もしていただきました。

杉原千畝氏についてのお話は、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツにより迫害を受けていたユダヤ人難民のために、本来は発給できない日本に渡るためのビザを杉原氏独自の判断で発給したというものでした。外交官という立場を失う覚悟を決めてまで人道を守り抜き 6000 人以上にも及ぶユダヤ人を救った杉原氏の行動に参加者の多くが心を打たれ、改めて「人権」について考えるきっかけになったのではないかと感じました。

次にお話いただいたのは梶尾氏の人生のお話です。兵庫県に生まれた梶岡氏は俳優を目指して東京へ行き、大きな壁にぶつかり拠点を中国に移し、また中国でも大きな壁にぶつかり今ではロンドンに拠点を移されているそうです。海外を渡り歩いた梶岡氏の人生から夢の話をしていただいたのですがその中で、「大きな夢を細分化していく」という話がありました。参加者の皆さんの多くが「夢」を持っていると思います。その「夢」を叶えるために、今自分が何をするべきなのかというところをしっかり見据えることが「夢」を叶える第一歩になる、と話をしていただき、これからの学生生活、延いては自分の人生設計を考える機会になったのではないかと感じました。また、夢がまだないという参加者に対しても、まだ焦って考えなくても大丈夫とアドバイスをされ、「夢」「人生」について考えることが大切ということを教えていただきました。

今回のグローバルワークキャンプのテーマは「広がる世界、広げる未来」でした。梶岡氏のお話でこの４日間のグロキャン中、またグロキャン後の自分自身の人生を見つめ、自分の可能性の世界を広げ、より良く未来を変えていけるような、そんな時間になったのではないかと思います。

全体アイスブレイク

千葉大学　２年　高光　智士

全体アイスブレイクは参加された方全員の緊張感を無くすとともに、新たな繋がりを作るきっかけをもってほしくて行いました。

はじめに『自己紹介ジェスチャー』というオリジナルのアイスブレイクを行いました。

まず、全員が順番に英語で簡潔に自己紹介をします。その後に、共通点があるもの同士でグループを作ってもらいます。グループ毎にどんな共通点で集まったかをジェスチャーで周りに伝えてもらいます。他のグループはそのジェスチャーを見て、グループの共通点を当ててもらいます。

行う前に「もしかしたら、あまり盛り上がらないかも」と思っていましたが、参加者の方の多くはスムーズに英語での自己紹介やコミュニケーションを主体的に行っており、英語が苦手な人にも得意な方が自然にフォローし、たくさんの人と人の繋がりが芽生えた様に感じました。ジェスチャーゲームでは好きなスポーツが同じ人同士で集まってもらいました。少しもたもたとしてしまうところがありましたが、時間通りに進められたので良かったです。

次に分科会ごとで分かれて、『フラフープ・リレー』を行いました。

一分科会あたり二十人前後いたので列が長くなりましたが、そのおかげで１レースあたりの時間がちょうど良くなり、とても盛り上りました。白熱し過ぎてフラフープが壊れてしまうほどでした。

全体としてもっと時間の割り振りをしっかりして部屋ごとにアイスブレイクをしたりそれぞれの交流時間を増やしたりしたかったです。参加者、EC それぞれが笑顔で行えたので良かったのですが、参加者と EC との距離があまり縮まらなかったように感じました。

次回のアイスブレイクではもっと参加者と EC をごちゃ混ぜにしてやれるとよりよくなれると思います。

全体交流会

熊本学園大学　２年　丸尾　日菜乃

１日目の夜は、これから一緒に過ごす仲間ともっと親睦を深め、国際交流をしてもらうための全体交流会を行いました。

プログラムの内容は、始めに「数集まり」をし、次に「民族ダンス」、そして「キャンドルの集い」、熊本の民謡ダンス、フォークダンスの順に行いました。数集まりは、はじめの段階では、動物の名前の文字数に合わせてグループを作る「猛獣狩り」の予定でしたが、外国と日本では、発音の違いがあり、ゲームがうまく回らないのではとなり、数集まりに変更しました。そのかいもあってか、参加者の方々もすぐにゲームを覚えてくれて、凄くスムーズにいきました。たとえ言語が通じなくても、ジェスチャーなどで相手に気持ちを伝えることが出来るんだと、あらためて感じました。

２つ目の民族ダンスのプログラムでは、２名のインドネシアからの参加者の方にバリの民族舞踊を披露していただきました。華やかな衣装に、日本ではあまり聞き慣れないガムラン音楽と素敵な舞にとにかく圧倒されました。参加者の皆さんもカメラ片手に写真や動画を撮っていて、多文化に触れる事が出来たのではないかと思います。

キャンドルの集いでは、代表の実行委員（EC）が火の女神に紛し、参加者と共に火を灯しました。凄く幻想的な雰囲気で、なかなかこういった機会がないので、参加者の方々にも喜んでいただけました。

お返しの気持ちを込めて、次のプログラムでは、熊本の民謡舞踊、火の国サンバを参加者と一緒に踊りました。初めは恥ずかしがって見てるだけの参加者も、周りの雰囲気につられて最後は楽しそうに輪の中に入って踊っていました。

最後に男女ペアになって、フォークダンスを踊り盛り上がりました。男女で恥ずかしがって踊ってくれるか心配でしたが、皆さん積極的に参加してくださって、参加者全員が踊れたのではないかと思います。文化は違っていても、どの文化にも音楽はあります。皆さんが楽しそうに踊っているところを見て、この国際交流という目的は達成出来たと思っています。

すべてのプログラムを終えた後の自由時間では、皆さんいろんな人と一緒に写真を撮ったり、連絡先を交換していました。EC はコスプレをしていたり浴衣を着ていたので、外国人の方から沢山写真をお願いされ、衣装チェンジしてよかったなと思いました。

この全体交流会を通して、沢山の参加者同士が交流し、その後の活動にも生かせていたので、凄く実のある時間になったと思います。

ユメノトビラ

熊本県立大学　２年　山野　貴絵

今回のユメノトビラでは、「人生のターニングポイント」と「問題にぶつかった時の対処法」、「大きな夢」、「これからの夢」をキーワードとしてプログラムを作成しました。まず参加者と一緒にワークシートを使って、今の自分と小さなころの夢を振り返ってもらいました。小さい頃の夢と今の自分を振り返ることで今の自分の夢が考えやすいと思いました。小さな頃の夢を振り返ることで今までのターニングポイントにも気づけたのではないでしょうか。

次に、ＪＩＣＡ熊本国際協力推進員の阿南栄子さんと日本文理大学の高見大介先生に自分のターニングポイントやこれからの夢などについて話をして頂きました。お二人の話はとても刺激的でした。ターニングポイントの話を聞いて、人生どんなことがあるかわからないと思いました。またターニングポイントは自分の人生を振り返ってわかるものだと感じました。さらにお二人の夢の話では、人生の途中で自問自答をされる場面がありました。新しいことや夢に向かって何かを始める際に一旦立ち止まって自分の今の状況を自分自身で確認するということをこれから行っていきたいです。また高見先生が引用された「少年は必要とされ、初めて大人になる」という言葉が印象的でした。自分のなりたい職業も大きな夢です。けれどもこの言葉を聞いて、こういう社会をつくりたい、誰かの役に立つ夢を目指すことも重要であり、そのような夢をもてる社会をつくっていくことも大事だと考えました。そしてこれからの夢も聞いて、私たちも頑張らないといけないし、夢には終わりがないと感じました。お二人の話を聞いて参加者や実行委員の夢が広がっていくと良いと思います。

この次にワークシートの続きを行いました。ここでは今の夢とその夢を実現化するための方法とプランについてワークシートを使って考えてもらいました。そしてこのあとに４人グループでワークシートを使って共有してもらいました。参加者と一緒に実行委員にも参加してもらいました。各グループでさまざまな夢が語られていてとても充実した時間でした。

このユメノトビラがみなさんのターニングポイントになることを願います。ユメノトビラで人生のターニングポイントと問題にぶつかった時の対処法、大きな夢、これからの夢をみんなで考えることができたと思います。そしてこれからみなさんの夢が実現してまたユメノトビラができることを楽しみにしています。

阿蘇学

西南学院大学　２年　上田　隆太

今回の阿蘇学の講義では阿蘇出身で今は「アースライブラリー」という写真事務所を阿蘇に構えていらっしゃる長野良一氏に講話をしていただきました。私自身が熊本出身で実際に熊本にいて地震を体験したので長野さんが言われた「地震のことやその後のことをしっかりと残していかないといけない」ということにとても共感を受けました。震災の時はただただ焦ってその瞬間のことしか考えれなかったですけど今思うとその時のことをしっかりとその後に生きていく人たちに伝えていくことも、実際に被災した私達の使命であるのではないかなと思いました。そのため写真で記録を残すような長野さんの取り組みは本当にすごいことだと思いました。長野さんはずっと阿蘇で生活されている方で私は熊本に住んでいるにもかかわらず、あまり阿蘇の方に行ったりすることもなく、熊本と言えば阿蘇といわれるぐらいなのにしっかりと阿蘇について知らなかったため、とてもためになりました。阿蘇には色とりどりの自然があり、長野さんがとられた写真はとてもきれいで改めて自然の雄大さや壮大さなどをひしひしと感じることができました。いろいろと阿蘇の素晴らしい自然が残るところを紹介していただき、そのなかでも地震でなくなってしまった「ラピュタの道」などは聞いたことがなくいろいろといってみたかったと思いました。そのほかにも阿蘇の歴史などを教えてくださり、聞いた話の中でも阿蘇が昔から同じ形をしており、昔は湖だったことなどびっくりさせられることがありました。自分は熊本県民なのでしっかりとほかの県の人や海外から来られる方に胸を張って阿蘇という地域の素晴らしさについて教えられるようにしたいと思いました。グローバルワークキャンプは、熊本の阿蘇で開催されるので第４回から導入された「阿蘇学」はとてもいい活動になっていると思います。今回私自身が初参加であったこともあってグローバルワークキャンプを参加者にとってとても有意義のあるものにしたいと思っていて実際に開催されているところを知ることはとてもいいことであると思いました。実際韓国の方などは阿蘇の神話や神社での習慣にとても興味を抱いて質問などもしてくださっていたのでとてもよかったと思いました。今回の阿蘇学は最終日の観光にもつながりとてもいいものになっていると思います。熊本で開催される以上熊本の誇る阿蘇についてはしっかりと学んでほしいしこれから長く続いていくであろうグローバルワークキャンプで目玉のプログラムの一つとして阿蘇学がしっかりと確立していけばいいなと思いました。

全体報告会

西南学院大学　２年　藤澤　亮平

グローバルワークキャンプの全体報告会の位置づけは、参加者全員の学びの集大成です。四日間の活動をそれぞれに整理し、今後の生活に活かしてもらうための大事なプログラムです。故に、全員が必ず発表してもらうことにしています。各分科会参加者が分かれ、他分科会参加者と新しいグループを作り、回遊型でポスター発表を行います。各参加者は自分の分科会のポスターに来た時には、分科会の活動内容を発表しなければなりません。それぞれに各分科会での学びを深化させるだけでなく、他分科会参加者へ分かりやすく発表しなければならず、緊張もありますが、発表した達成感はそれぞれを成長させてくれます。

今回、私は初めてグローバルワークキャンプにスタッフとして参加しましたので、分科会や全体報告会の内容を考える上で様々な大切なことを学びました。そのことを報告書に綴らせて頂きます。

全体報告会で、１番大事になることが、参加者全員が各分科会の内容を意識として共有できるかどうかということです。上記のように、全体報告会では、参加者全員が発表者となり、各々で参加した分科会の内容を発表するという内容になっております。全体報告会を進める上で、１番重要な事は発表者全員が不自由なく発表できる環境を私たちスタッフが考えて作っていくことです。そのためにはまず、四分科会が同じ部屋で発表することによる、発表者の声の混同で、聞き手側が発表者の言葉を聞き取れない、理解できない状態を軽減する必要がありました。私ともう１人のスタッフでどのような、発表のステージの設営をしていくか考えまた、様々な大人の方々に意見を求めながら、計画を進めていきました。本番当日、不自由なくスムーズに全体報告会ができたので、安心しました。

また全体報告会のスタッフとしての視点を上記させて頂きましたが、次は参加者の視点として記させて頂きます。

今回のグローバルワークキャンプの分科会は、経済、環境、ボランティア、平和の四つのテーマに分かれていました。私は経済を担当していましたが、発表者は、私たちが伝えた内容を堂々と発表する方、恥ずかしながら発表する方、個性的に発表する方色んな方がいて、分科会の時とは違う姿を見ることができ、非常に新鮮でした。

環境、平和、ボランティアの分科会の参加者の発表もまた同じように色んな方々がいましたが、特に僕は平和の分科会の参加者は堂々と発表している人が多いイメージでした。

今回の全体報告会は、グローバルワークキャンプのスタッフとしての視点で綴らせて頂くなら、分科会としての参加者と、全体報告会としての参加者では、聞き手と発表者としての立場の二面性が見れたという点で非常に楽しませて頂きました。

今回スタッフとして参加して、辛いこともありましたが、非常にこの活動に充実感を感じました。

次回のグローバルワークキャンプは、参加者として参加させて頂こうと考えています。

是非来期のスタッフには、今回のグローバルワークキャンプよりもより良いものにして頂きたいと思ってます。

観光

熊本学園大学　２年　桑本　始奈

最終日の午後は、草千里と阿蘇神社にみんなで行きました。

阿蘇は昨年の熊本地震により、多大な被害を受け、草千里も道が復旧せず休業していた時期がありました。

当日も営業再開が出来ていないお店もあり、熊本地震から１年４ヶ月が経っても地震の爪痕を感じました。しかし、いざ草千里を目の前にすると、阿蘇五岳の烏帽子岳を望む草千里ヶ浜と今も勢いよく噴煙を吹き上げる中岳、雄大な阿蘇のカルデラや外輪山など 360 度見渡す限りの絶景に出会うことができました。広がる大自然の中で、４日間を共に過ごした 100 名以上の仲間と食べるお弁当はとても美味しく感じました。

お弁当を食べた後は、阿蘇神社に行きました。阿蘇神社も昨年の熊本地震の影響により、楼門と神殿が倒壊してしまいました。今は復旧に向けて倒壊した部分はシートに覆われてわからないようになっていますが、ここでも地震の影響というものを感じました。

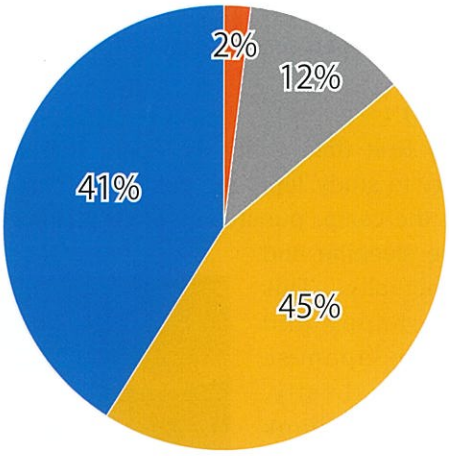
しかし、被害はあるものの地震に負けず、立派に建っている神殿には感動しました。

また、阿蘇神社から入った横参道には門前町商店街が立ち並んでおり、どこか懐かしい情景が広がっていました。至る所から湧き出ている湧水の心地よい流れの音やどこか落ち着く音楽と共に美味しいソフトクリームやコロッケを食べながらのんびりと観光することができました。みんなそれぞれに最後の交流や観光を楽しんでいる様子を見ることが出来てよかったです。

最後に、このような美しい自然や、そこに調和するように生活している人々の様子を感じることができる阿蘇で、一年ぶりに第５回グローバルワークキャンプを開催できたことを嬉しく思います。

アンケート集計

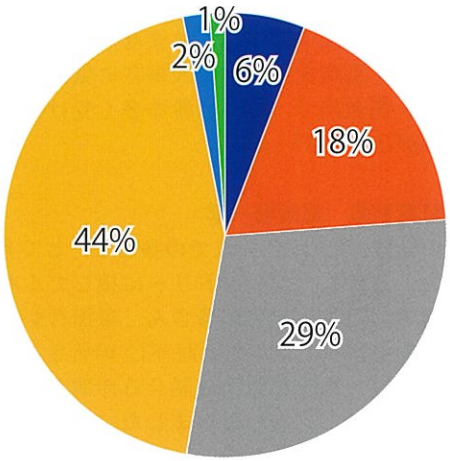
分科会活動満足度



■1 ■2 ■3 ■4 ■5

不満 ← 普通 → 満足

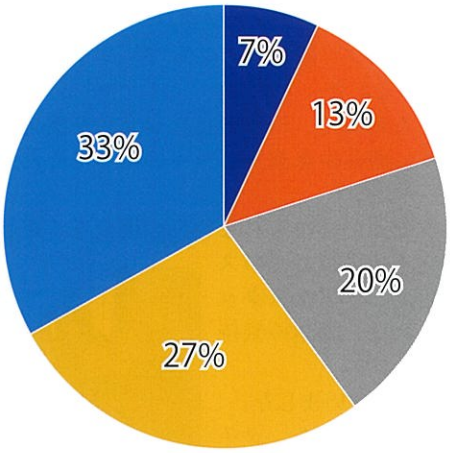
全体交流会満足度



■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■未回答

不満 ← 普通 → 満足

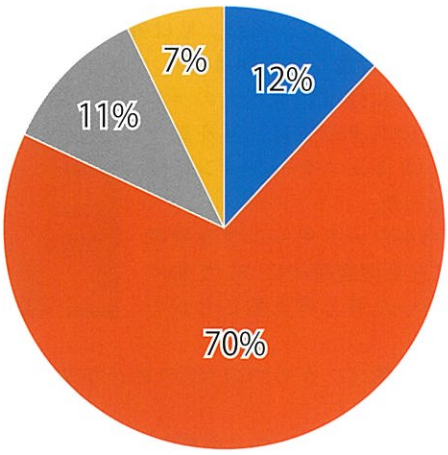
ユメノトビラ満足度



■1 ■2 ■3 ■4 ■5

不満 ← 普通 → 満足

来年も参加したいか



■実行委員として ■一般参加者として
■参加したくない ■未回答

面白かったプログラム

1 位　分科会活動
2 位　全体交流会
3 位　ユメノトビラ

参加者より

熊本県立大学文学部　宮本　涼

私は今回初めてグローバルキャンプに参加させて頂きました。韓国を始めとする諸外国の方々は、日本で暮らしていても、それぞれの国で抱えている問題がこれほどまでに違うのかと、実感しました。日本にずっといると、なかなか自国を意識する事はありませんが、多くの国の人に囲まれて、意識を持つ事の大事さに気付かされた様に思います。刺激的で、良い影響を多く受ける数日間でした。ありがとうございます。

熊本大学教育学部　那須啓一郎

初めての経験、たった 1 人での参加で、とても緊張していました。しかし、フレンドリーに接してくれる留学生の皆さんや、日本人学生の皆さん、参加者が交流できるような活動を作ってくださった EC の皆さんのおかげで、最終日には、周りに気楽に話せる仲間がいて、帰るのが惜しくなるほどになっていました。平和について考えることはふだんはあまりなく、意見をしっかり言えるだろうかと不安でしたが、様々な国の留学生と意見を交換できました。日本人学生の中にも様々な活動をしている人がいて刺激になりました。来年も参加したいと思っています。素敵な経験をさせていただいてありがとうございました。

サーイロム（タイ）：

私は熊本でのグローバルキャンプに参加できることを知った時、とても嬉しかった。私は外国人としかも、外国である日本で活動した経験はない。

でも、一緒に行ったタイ人のメンバーや熊本のスタッフは、私を助けてくれた。コミュニケーションの逆境は無くなった。

グローバルワークキャンプを参加して、私は社会問題解決について様々な視点を持った者と考えることができた。

日本での経験は、タイでの NGO の仕事や活動に活かされるでしょう。

私に色々なことを教えてくれ新しい経験を与えてくださった方々、どうも有難うございました。

アミ（タイ）：

I was very impressed about this camp. I could touched many things in different places, cultures, languages and life styles of other countries, especially Japan's cultures, for example eating, sleeping and many things about that. In the first I thought that there was amazing country. I love these

countries of cultures and all at there. It was the first time that I worked with other country people. This camp gave me many things. I received new opinions, new knowledge and new experiences from this camp. So, I can tell other people about "peace" and life style about Japan that I received from there.

ヤカー（タイ）：

This is my first time going to Japan. It is a great opportunity to study Japanese culture and learn new things. At the camp, punctuality is very important. I have to be sleeping and eating punctually. This makes me happy and I found the Japanese is very kind. Lastly, I would like to thank the Kumamoto staff for hosting the event. Thank you very much

アソー（タイ）：

今回、熊本でのグローバルキャンプに参加して、様々なことを学ぶことができました。すべてをここには書ききれませんが、主に日本人を含めた様々な外国人の社会に対する考え方や、問題解決の方法、それに日本人の素晴らしいホスピタリティー等です。

また、キャンプに参加したことで、一生の友達に出会うことができました。

皆さんとても親切で、日本の色々な文化や歴史を教えてくれ、熊本に滞在中を充実したものにしてくださいました。

このような他では得られない良い機会をくださった熊本市国際交流振興事業団のスタッフの皆さん、学生スタッフの皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

熊本で学んだことを、タイの地域開発で活かしていきたいです。

プイ（タイ）：

今回のグローバルキャンプでは、私は平和のグループに参加しました。平和について考えただけではなく、その他日本の文化等のいろいろな勉強ができました。

新しい友達もたくさんできました。一緒に活動をした時は、楽しくて幸せな気持ちでいっぱいでした。色々な経験をくれたこのキャンプは、とても良いキャンプ

参加者より

です。
熊本の皆さん、本当にありがとうございました。

トンスン（タイ）：
It's a short time. But it is the best time for learning, experiencing. We have different culture, language, but in humanity we are same it is global. Let's accept our differences. Love you all!

May Myat Thu Zar（ミャンマー）：
I would like to tell you about experience and feeling of participation in Global Work Camp. I attended Group 1 (economic).
I got a nice time and I was really happy in Global Work Camp. I knew many point of view about economic in there. I got many Japanese friends and international friends. This improved my communication skill. This camp make me to become a ambitious person.
I was warmly welcomed by Global Work Camp although I arrived one day late. All participants, charges of the camp and translator helped me. Japanese people are really kind-hearted.
I am sure that I don't forget the time which I spent in Global Work Camp. This camp is really good for teenagers who are looking for foreign experience and communication with foreign people.

Su Myat Lin（ミャンマー）：
Firstly, I want to tell you about my feeling concern with global work camp. It gave my happiness and enjoyable.
I got a lot of knowledge not only local knowledge but also acedamic knowledge.
I liked presentation by other participants.
One of the most interesting thing is group discussion for me. Because it can give different thinking and ideas.
I have a chance to discuss between developing countries as like myanmar and developed countries by my friends in global work camp.
I can make a lot of friends from other countries in global work camp.
Whatever, finally, I really want to tell very thanks global work camp program. If you didn't give a chance to participate in global work camp, I couldn't get many kinds of knowledge and experiences.
I never foget global work camp.

Anom Harjana（インドネシア）
Hello, I am glad to get this email from you. Of course I still remember you and the amazing camp. Sorry for late replay.
Regarding to Global Work Camp, I like the concept, its mechanism, and the lesson given in the camp. I really appreciate the committee about the schedule that given to me, so I can perform Balinese Dances. I do hope all of committee and the participants keep in touch, so in future we can share some information or doing another collaboration. I also hope that I can take part in some activity held by Kumamoto International Foundation in the future.
Thats all from me, thank you very much for all. Have a nice day.

Leoni（インドネシア）
This program was one of the best opportunities in my life, because for about 8 days I lived in Japan I had an amazing experience which is really meaningful for me. International meetings by presenting people from different countries with different languages will be able to unite with the same language so that all thoughts, opinions can be well conveyed to everyone. But it does not really make me too difficult when I socialize with my friends there because they want to try to do their best to build a friendship in a different way.
I have a suggestion, if the next program is re-implemented, it would be better if all the material discussions, announcements, presentations or seminars are also delivered in English because I think this program is an International program and the participants also come from various countries, so it would be better when using International language as well.
Hopefully such a program can continue to be held so that more and more young people in the world can gain experience and knowledge about various things in global coverage.

実行委員会より

熊本大学　３年　藤本　喬大

第五回グローバルワークキャンプは皆様の温かい支えにより、何とか開催、そして華々しく終えることができました。手を貸してくださった通訳の方、推進員をはじめとするアドバイザーの方々、様々な形でお話をしていただいた方々、そして参加者の方々、本当にありがとうございました。

グローバルワークキャンプは、日本の大学生約 50 人と、国外の大学生約 50 人で、様々なプログラムを通して交流し、大学生にしかできない世界的課題の解決に一歩踏み込むことで、グローバル人材を育成する、という趣旨のもと開催されたイベントです。５回目になる今回は、約 120 名を超える方に参加していただきました。多くの方に参加していただけたのは、第４回までがあったからです。今後もグローバルワークキャンプは第６回、７回、……と長く続いていくと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

さて、今回のテーマは「広がる世界、広げる未来」でした。様々なプログラムを通して交流を図ることで自分の世界が広がっていき、そして、ここで出会った人たちや、ここであったことがらをもとに未来を広げていきたい、という思いが込められています。普段の大学生活では何カ国もの人たちと交流することはあまりありませんし、日本人だけでも、出身も大学も学年も違う人たちと深く交流することは稀です。国も年齢も文化も違う人が集まる、このグローバルワークキャンプをきっかけに、様々な価値観や考え方を知り、自分の世界を広げることができたのではないでしょうか。また、多くの人との交流や講演によって、自分の夢を膨らませられた人も多ければなと願うばかりです。

プログラムとしては、基調講演、全体アイスブレイク、全体交流会、阿蘇学、ユメノトビラ、そして分科会を用意していました。今後のためになる話を聞けたり、ひたすら交流したり、阿蘇について学んだり、夢を聞いたり語ったり……バラエティに富んだプログラムになっていたのではと思います。一日目の受付では緊張面だった皆様も、プログラムが進むにつれほころぶ顔が見られるようになっていったのが印象的でした。分科会は、「平和」、「経済格差」、「環境」、「ボランティア」の４つ、これもまたバラエティに富んでいます。４つの分科会に分かれ、二日間を通して、身の回りで起こっている様々な事象から、世界共通の課題まで、議論や意見の共有などで理解を深め、大学生の私たちだからこそできる解決策を見つけられました。これまでとは少し変わった真剣な顔つきも見られ実行委員一同喜び合いました。

４日のグローバルワークキャンプで様々な学び、体験があったかと思います。反省や後悔もあったかもしれません。グローバルワークキャンプで得たものすべてを成長への糧にし、今後の世界を担うグローバル人材になりましょう。将来、自分を見つめ直す機会に、このグローバルワークキャンプが人生のターニングポイントになっていたら喜ばしいです。

重ね重ねになりますが、熊本市国際交流振興事業団の皆様、協力者・協力団体の皆様、そして参加者の皆様へ実行委員一同から心より感謝申し上げます。

連携推進員より

第５回グローバルワークキャンプに参加して

３泊４日のほぼ全日程に参加させていただきました。充実したプログラムで、あっという間の期間でした。当日に向けての事前研修に２回ほど参加させていただきました。勉強会のテーマを決めるための研修では、テーマの選定で活発な議論がありました。なるべく意見を述べることを控えていましたが、みんなの熱意でスムーズに決定されました。設定されたテーマは、キャンプの目的を達成するために適したテーマであったと思っています。各分科会では有意義な意見が寄せられ、活発に議論されていたと思います。また、大会を通して大学生のレベルに達している議論になっていました。中には、自身の体験者としての意見がありましたので、説得力がありました。私としても、もう少し踏み込みたかったところがありましたが、邪魔するといけないと思い控えていました。グローバルキャンプだけあって、外国人との意見交換は違った文化・環境で育った人の意見として、参加者全員にとってとても良い機会だと思いました。また、いろいろなプログラムが設定されそれぞれの時間が窮屈でなく、過ごしやすく友情を育む良い機会であったと思われた。

最後にできることなら、事前の勉強会の時間がもう少しあると、分科会・全体報告会での意見交換が深まるのではないかと感じました。

連携推進員（熊本ユネスコ協会）橋村　隆介

グローバルワークキャンプは、キャンプの企画から準備、運営、まとめまでとイベントを実施する上で重要なプロセスを学ぶことのできる有意義な機会であったと思います。

イベントは、準備が９割、当日の実施が１割と言われており、準備の大切さを学ぶことができたのではないでしょうか。

近い将来、皆さんが社会に出て、様々な仕事に就かれることと思いますが、どんな仕事であっても、このキャンプで学んだことは、業務を進める上で共通する点も多く、きっと役に立つことと思います。この経験を頭の隅にでも置いておいて、必要なときに役立てていただきたいと思います。

これからの皆さんの活躍を心からお祈りいたしております。

木下　俊和

今回、分科会の担当はなく、実行委員の皆さんとあまり関わることはありませんでしたが、昨年参加された方が多く実行委員を務めておられた様子。

事前準備から分科会実施の話し合いまで、昨年の分と振り返りながらしっかり形にできたのではないでしょうか。

当日の様子は少ししか拝見しませんでしたが、貿易ゲーム、映画、写真など様々なツールを用いて参加者も楽しみながら学べる工夫がなされていました。

今の社会のキーワード、地方創生やSDGｓなどにも通じる分科会テーマでした。海外にいかずとも熊本の阿蘇でできる国際交流の貴重な機会、グローバルワークキャンプに参加した体験の余波を縦軸にも横軸にも今後広めていただけるよう期待しています。

JICAデスク熊本　国際協力推進員　阿南　栄子

グローバルワークキャンプ　タイ派遣プログラム

タイ派遣では、８人の日本人大学生が、タイ･チェンライにあるミラー財団と山岳民族アカ族の村（バン･ユースック）を訪問しました。現地の人たちとの交流とボランティア活動（植林と小川へのダム作り）を通して、日本と比べて不便と思われた社会の中で、真に大切にすべき普遍的な価値観を見つけることができました。また、グローバル化が進展する社会で、異なる文化を受け入れ、誰ひとり置き去りにしない社会の構築をめざし、自分達にできることを考えていくことができました。

活動内容

◇派遣期間：2017 年９月６日（水）～ 2017 年９月 12 日（火）５泊７日

日時	活動
９月６日（水）	福岡国際空港→バンコク経由→チェンライ→ミラー財団到着
９月７日（木）	午前：ミラー財団の敷地内の散策、ミラー財団の活動についての説明。 チェンライにある市場を見学。 アカ族が住むユースック村に到着（チェンライから北方向に車で２時間の村、ラオスとの国境付近）。 夜　：キャンプファイヤーを囲んでアカ族の民族ダンスを一緒に踊り、歌を歌いながら交流。
９月８日（金）	午前：ユースック村の子ども達（アカ族、モン族、中国系）が通う小学校を訪問。 簡単な日本語を教えて、折り紙、浴衣の着付けで日本文化を体験してもらい、ゲームを通して子ども達と交流。 昼　：子ども達と一緒に給食（ココナッツカレースープかけ麺とパッタイ）。 午後：子ども達とバレーボールや綱引きでスポーツ交流。 夜　：アカ語（アカ族が使う言葉）のレッスン。
９月９日（土）	午前：ユースック村での植林活動。村人と約 50 人と 600 本の苗を植え、前日に覚えたアカ語でコミュニケーションに挑戦しながら楽しく作業。 午後：小川でダム作り。近くにある竹と土で作る自然のダム作りを体験。 夜　：村長（普段はあまり会うことができない）をはじめ村人達と懇親会。 村長への質問タイム！！
９月 10 日（日）	午前～午後：チェンライに移動しワット・ロンクン（ホワイトテンプル）の見学
９月 11 日（月）	午前：ミラー財団で作成するフェアﾄﾚｰﾄﾞ商品の製作現場と販売の様子を視察。 ボランティア修了書の授与。 午後：カレン族の村へ移動。チェンライ→バンコク
９月 12 日（火）	バンコク→福岡国際空港到着

主な活動

－街と村の文化交流プロジェクト

タイ全土から集まったボランティアたちが、村に滞在しながら、自分の持っている知識を教え、代わりに村人から生活の知恵、文化を学びます。

－タイ国籍取得運動プロジェクト

－フェアトレードプロジェクト　　etc…

ミラー財団とは

タイ社会の中でマイノリティである山地民が、偏見や差別に遭うことなく、豊かな可能性を発揮できる社会をつくり、低地民と山地民がそれぞれの文化や価値観を認め合い、共に学び生きることが可能な社会をつくることを目的にタイ・チェンライ、バンコクで活動を行っている団体です。

タイ派遣者の感想

日本文理大学　1年　元　陸音

僕はタイでの活動中に自分の生まれた島・徳之島と照らし合わせることが多くありました。時間がゆっくりと流れる生活、村人全員が他人を信頼しているような関係、文化が急速に失われてきているといったことを感じるたびに頭に思い浮かび考えることがありました。

ミラー財団のオリエンテーションで山岳民族が生活の変化を強いられている状況や抱えている問題、低地の暮らしや文化が違うため差別を受けたり、人身売買に巻き込まれたりすると教わりました。そこでそういう状況下にある民族の方は自分たちの生まれた土地をどう思っているか気になり質問しました。返ってきた答えは「周りとは異なる文化にいる自分を誇りに思う」と「自分の文化にも誇りを持つがそれ以上に人のために仕事をできていることに誇りを持つ」でした。この2つを聞いたとき、「周りにはない自分たちだけの文化だ」、と閉鎖的で優劣をつけるのではなく、周りの文化を受け入れたうえでの考えに聞こえました。自分とは異なるものに対して関心を持ち、受け入れようとした寛容性がユースック村全体の共同生活につながったのではないかと感じました。

僕にはどうしてユースック村のような村人同士のコミュニケーションが密なところで伝統・文化の継承が難しくなってきているのか不思議に思えました。人口の減少、経済的な課題など環境要因もあるけど、今回は人的要因に注目しました。村で生活をした中でスマートフォンやテレビが普及し村人の関心が外の情報で利便化し、村のゆったりした時間の流れとの違和感を覚えました。人々の関心が外へ強く向き村での生活への関心が薄れていることで文化継承が困難になっているのではないかと思いました。ユースック村の出身でミラー財団のアソさんが伝統的な暮らしに関心を持ち、実行していることがとても重要な意味を持つと感じました。それは、文化を知識で教わるのではなく生活に取り入れることで自然と文化に触れる機会が多くなるからです。関心のないときに文化を教わってもその場の満足で終わってしまいます。そのため、昔ながらの知恵や教えを活かした生活をし、それを中心にコミュニティを形成したらよいと考えました。豊かな社会を維持していくには、その社会の文化継承が生活している土地の近代化と同じ度合いで進めることが重要だと感じました。日本でも同じ問題があるため、それを考えるための発見にもなりました。改めて徳之島を含めた地方の現状、文化、関心がどこにあるのかを考える必要があると痛感しました。

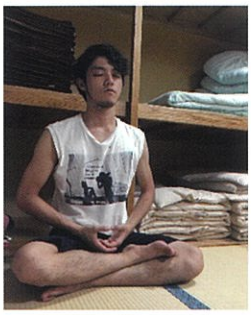
今回の派遣で各自テーマを設け充実した活動ができたと思います。だけど、自身も含めて一人ひとりの活動が多く、チームとしての活動があまりできなかったと思います。今後このような活動の機会があるときにはチームワークも意識した活動にしていきたいと思います。

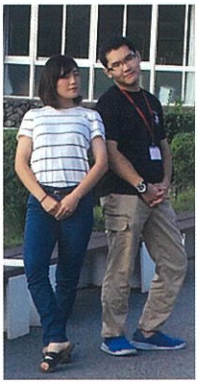
タイ派遣をきっかけに今後の活動意欲が高まりました。また、物事が今までとは違った視点で見ることができるように成長することもできました。

熊本大学　4年　冨ケ原　理恵

山岳民族について学ぶことで異文化理解に重要となる視点を学ぼう！という心意気で今回のプログラムに参加したが、自分自身を省みる機会になりました。様々な活動を通して、視野の広がる新しい経験や学びがあったことは言うまでもありません。最も大きな収穫は、自分自身の責任について考えさせられたことです。先進国・日本に生まれたからには発展途上国の成長に寄与する社会的責任がある、と感じていましたが、それだけではなかったということに気づきました。アカ族の村の存続という1つの問題と向き合っているようで、世界のあらゆる地域で起きている同じような問題とつながっています。グローバル化・持続可能な社会のような大きな問題について思考を巡らせることは、自分1人の生活や責任を省みることと隣り合わせです。自分の故郷や伝統に対する誇りを忘れてはならないと再認識した今回のプログラムでした。では、具体的に自分の人生にどう反映すべきなのだろうか？わたし自身、4月から故郷を離れて世界を相手に働くぞ！と意気込んでいた手前、今さら何をしていいのか分からなくなってしまいました。若者が故郷を離れることで地域が衰退してしまう――その一員に自分もなってしまうのか…と落ち込んでしまいました。しかし、村や故郷を離れてソトの世界を知ることも持続的な「豊かな」生活には欠かせないと考えました。①地域創生や伝統継承を自分が担うという意識付けと、②地域における経済活動の発展が重要なのではないかと考えた結果、学校教育で地域社会の一員であるという自覚を育成することで、故郷を離れた若者たちが自ら地域における経済活動に取り組むことが理想的であるという答えに落ち着きました。今後、社会に出てから、私が取り組むべき課題が見えたと思います。ビジネスを通して地域の活性化を図り、豊かな生活の実現と地域創生の一翼を担いたいです。また、在学中は卒業論文の執筆に注力します。現在設定している異文化教育の導入についてのテーマを見直し、今回の派遣プログラムで感じた「地域社会の一員である、伝統継承を担う存在である」という意識の育成について今後研究したいと思います。

４日間の軌跡





第５回グローバルワークキャンプ実行委員

藤本　喬大	熊本大学
戸田　千晴	熊本県立大学
大賀　万柚子	筑紫女学園大学
丸尾　日菜乃	熊本学園大学
桑本　始奈	熊本学園大学
山野　貴絵	熊本県立大学
山田　京平	西南学院大学
藤澤　亮平	西南学院大学
上田　隆太	西南学院大学
高光　智士	千葉大学
上田　亮	日本文理大学
中西　涼太	日本文理大学
橋本　夏季	九州ルーテル学院大学

【主催】
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
〒860－0806　熊本市中央区花畑町4-18(熊本市国際交流会館)
TEL：096－359－2121　　FAX：096－359－5783
E-MAIL：pj-info@kumamoto-if.or.jp　URL http://www.kumamoto-if.or.jp/
Facebook：https://www.facebook.com/globalworkcamp.aso/

平成 29 年度文部科学省「青少年教育施設を活用した国際交流事業」として実施